

## 刊行に寄せて



文部科学大臣

平野博文

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災から、一年三ヶ月余が経過いたしました。犠牲者や行方不明者は二万人近くにも及び、また、原発事故では、今なお多くの方々が避難を余儀なくされています。改めてこの大震災により亡くなられた方々に心から哀悼の意を表するとともに、すべての被災者の方々に心からお見舞い申し上げます。

文部科学省では、教育、科学技術・学術、スポーツ、文化における施策の新しい動きについて、広く国民の皆様にご紹介するために、「文部科学白書」を刊行しています。

平成 23 年度文部科学白書では、特集テーマとして、「東日本大震災からの復旧・復興～人づくりから始まる創造的復興～」を取り上げました。

今回の特集では、震災による文教・科学技術関係の被害の概況、震災発生後の緊急対応、教育活動の再開等の復旧の取組等について総括するとともに、地域コミュニティの拠点である学校を核としたまちづくりや、大学等の知見を活用した地域の再生などの復興に向けた取組について事例も盛り込みながら記述しています。また、原発事故への対応について、モニタリングや原子力損害賠償の取組、学校における線量低減の取組などについて取り上げています。

さらに、今回の特集では、大震災からの教訓を踏まえた、今後の創造的復興に取り組む文部科学省の基本的考え方について示しています。

今回の大震災の教訓は、防災対策などに止まらず、従来の社会の在り方や人の考え方など幅広い問題に及ぶものであり、被災地だけでなく我が国全体の課題として共有していく必要があります。

こうしたことから、現在、中央教育審議会においては、平成25年度からの第2期教育振興基本計画の策定について、震災から得られた教訓なども踏まえた検討が進められています。自然と共生できる新しい日本社会を作っていくためには、どのような教育の形が必要なのかを、皆さんと共に考えていきたいと思えます。

この一年三ヶ月余り、被災にあった子どもたちは、その厳しい運命に押しつぶされることなく、一人一人、学校へと戻ってきてくれました。苦境におかれても、困難に屈せず頑張り続ける子どもたちの笑顔や目の輝きに、逆に私たち大人の方が、たくさんの勇気ももらいました。

文部科学省は、今後も、被災地の学習環境を回復させるための最大限の努力をまいります。尊い命が奪われた悲しみを忘れず、亡くなられた方々の御魂に報いるよう、地域再生のための新しい教育にも積極的に取り組んでまいります。

教育、科学技術・学術、スポーツ、文化芸術の振興のためには、国民の皆様の御理解と御協力が不可欠です。本白書が幅広く活用され、皆様の理解を深めていただく一助となれば幸いです。